

修学旅行報告

2 学年会

1 はじめに

ここ奄美では、近年修学旅行を実施しない学校もあるが、本校はここ数年は関西方面の修学旅行を実施している。本校設立当初の修学旅行は、古仁屋から名瀬まで歩いて実施していたらしい。当時はトンネルも開通していなかったもので、途中住用で一泊して名瀬まで行ったのだそうである。昭和 27 年におがみ山で撮られた修学旅行の記念写真には当時の古仁屋高校生が生き生きと写っていた。やはり修学旅行はいつの時代も学生生活を彩る最高のイベントである。どこに行くか、何を学ぶかということも大事ではあるが、何よりも仲間との絆を深められることが修学旅行の意義である。今年は大阪・奈良・京都を研修場所とし、3泊4日のスケジュールで、瀬戸内町からの支援も頂き、恵まれた条件で旅行を実施できた。その中で生徒達が何を見て、どのように感じたか、旅行の様子を生徒の感想を交えながら報告する。

2 行 程

日次	月日(曜日)	発着等	交通機関	日 程	宿 泊
1	12 / 4 (火)	古仁屋発 奄美着 奄美発 伊丹着 伊丹発 奈良着	バス 飛行機 バス	9:00 古仁屋高等学校発 11:20 奄美空港着 12:40 奄美空港発 14:05 伊丹空港着 14:40 伊丹空港発 15:40 奈良公園着 17:40 奈良公園発 18:10 ホテル(大仏館)着	奈良泊
2	12 / 5 (水)	奈良発 京都着 京都発	バス 地下鉄・バス	8:00 ホテル(大仏館)発 9:00 京都駅着 京都市内自主研修 17:10 京都駅発 18:10 ホテル(大原温泉・大原の里)着	京都泊
3	12 / 6 (木)	京都発 大阪着 大阪着	バス バス	8:00 ホテル発 9:00 大阪城着 10:00 大阪城発 10:30 ユニバーサルスタジオジャパン着 18:00 ユニバーサルスタジオジャパン発 18:40 ホテル(チサンホテル)着	大阪泊
4	12 / 7 (金)	大阪発 伊丹着 伊丹発 奄美着 奄美発 古仁屋着	バス 飛行機 バス バス	7:30 ホテル発 9:00 伊丹空港着 10:15 伊丹空港発 12:00 奄美空港着 12:30 奄美空港発 13:00 昼食(ひさくら) 15:30 古仁屋高等学校着	

3 旅行の記録

12月4日（火）

いよいよ出発の日。朝8時半に集合。さすがに遅刻はなく、時間をしっかり守っていた。体調も良さそうだ。玄関前での出発式を終えてバスに乗り込み、先生方に見送られ定刻通り出発した。

空港で荷物を預けてから、各自昼食をとり、その後搭乗。大島北高と同じ便であった。大阪伊丹空港が近づくと皆の視線は眼下に広がる都会の景色に釘付けになった。12月に入っても最高気温20度近くの奄美大島からいきなり5度を下回る関西へ。その気温差を少し心配したが、生徒達は元気だった。（生徒T「伊丹空港に着いて奄美とは全然違う寒さで、耳が痛かったです」

生徒N「島の冬とはつがう寒さを肌で感じました」生徒T「奈良はとにかく寒かったです」



空港でバスに乗り込み、奈良公園へ向かった。公園内では専門のガイドさんの案内で観光。かなりベテランの男性ガイドさんでぐいぐい引っ張って進んで行かれた（ちょっと速すぎたかも）。（生徒A「ガイドさんが面白く、沢山のことを学びました」生徒I「人が多すぎてガイドさんの声がほとんど聞こえませんでした…。」）奈良公園では、鹿の集団が生徒たちに群がってきた。餌やりの仕方を教わり、おそろおそろ鹿煎餅をやる生徒たち。きちんとお辞儀をしてから煎餅をねだる鹿もいれば、そんなことお構いなしで頭突きを食らわしてくる鹿もいて……半泣きになっている生徒もいた。（生徒K「鹿を見るのをとても楽しみにしていましたが、実際に見て思っていたよりも恐くて、人なつっこくて一度も触れませんでした…。生徒T「餌がなくなっても鹿が追いかけてきたので恐かったです」生徒I「鹿せんべいを鹿の頭上に挙げるとお辞儀をしてかわいかったです」生徒H「鹿せんべいはぜんぜんおいしくなかったです」

東大寺の南大門には、あの有名な金剛力士像が。その大きさに圧倒された。そして、奈良といえば「大仏」。かなり見応えがあった。しかし、あまりの人の多さに移動するのが大変だった。（生徒A「写真や教科書で見るとより

生で見た方が迫力があってすごいなと思いました」生徒T「大仏は写真で見ると数倍大きかったです」生徒I「昔の人にそのような物をつくる技術があったことが驚きでした」生徒M「大仏の鼻の穴をを通り抜けて見たかったです…」



バスガイドさんは話し上手で、移動中もいろいろな説明をされ楽しく飽きることがない旅だった。かなり物知りになったはず。1日目は、「大仏館」に宿泊した。5分前には集合でき、みんなで初めての食事。配膳や片付けにも協力し、心配りが出来る生徒たちに心も温まった。最初は大浴場を嫌がっていた生徒達だったが、意外と楽しんでいた。旅館の目の前には五重塔があり、夜は美しくライトアップされていて印象的だった。



12月5日(水)



旅行2日目。朝6時15分起床と早かったにも関わらず、全員時間通りに朝食会場に。体調不良者もなく、予定通りに京都へ向けて出発。途中、バスの中から復元された朱雀門も見ることができ、遷都1300年の歴史に思いを馳せながら奈良を後にした。京都駅についてから各班に分かれ、京都市内自主研修開始。京都駅は広すぎて迷子になりそうだったので、バス停まで全員で移動し、そので解散した。

バスの路線図を見ながら目的地を目指す生徒たち。朝の通勤者と修学旅行生でバスは満席に近い状態だった。風情豊かな京都の町並みを歩きながらおいしそうな食べものにも目移り。ぎりぎり紅葉を見ることができた。

初めて紅葉を目にした生徒たちからは感嘆の声もあがった。絶頂期はため息が出るほど美しいそうだ。(生徒M「金閣寺は日光に当たると眩しいくらいの輝きだった」生徒H「清水寺では恋が叶う石に触ったり、恋の叶う水を触ったりしました」生徒K「清水寺はすごく広くてびっくりしました。紅葉がとてもきれいでした」生徒S「亀美では絶対に味わえない寒さや町並みを見てわくわく



した京都でした」生徒T「人酔いしていたのも忘れるくらい素晴らしい風景が広がっていて心がとても和みました」生徒K「京都駅でラーメンスタジアムに行きました。豚骨ラーメンがおいしくて感動でした」生徒K「祇園で舞妓さんに会



いました。すごく美人でした」)

2日目の宿は、京都大原の民宿「大原の里」。広い道路でバスを降り、宿までの細い坂道を5, 6分のぼって到着。宿は、ほぼ貸し切り状態。和室に男子は大部屋、女子は4, 5人ずつが泊まる、いかにも修学旅行という雰囲気。温泉は露天湯付きで、寒空の中その湯につかった生徒も。夕食は皆で温かい鍋を囲んだ。生徒たちはこの日も食欲旺盛。夕食後、「ぜひ」という宿からの勧めもあり、近くのかの有名な「三千院」の僧侶の説法を聞くことになった。人生でいちばん大切なものは何かを皆で考えてみた。そして、隣の人と両手を合わせ、そこから相手の感情を感じとれるか試してみた。感じること・体得することの大切さを教えていただく、貴重な体験となった。(生徒S「旅館には露天風呂があり、友達と温泉ツアーごっこをしったり楽



しみながら入浴しました」生徒K「露天風呂は人生初でした。すごく気持ちよくて、よかったです」生徒Y「説法は最後



まで飽きない楽しい話をして下さいました」生徒A「説法では『人は一人では生きていけなくて互いに尊重し合わなければならない』という言葉頂き、心にじんとききました」)

12月6日(木)

旅行3日目。今日も天気に恵まれた。京都を出発して大阪へ。いつもより更に集合が早く、予定より早く出発したものの渋滞にかかってしまう。これも奄美では体験できないことだった。途中、車窓から琵琶湖を見ることができた。予定より少し遅れて大阪城に到着。天守閣に登る余裕はなかったので、少し散策して写真撮影。(生徒M「大阪城はとても立派で天気も晴れていたの、キラキラして見えました」生徒K「大阪城は現代風のお城のような気がしました」生徒T「城が好きなので、中まで入れなかったのが残念でした」



バスに乗り込み、3日目のメイン「ユニバーサルスタジオジャパン」に到着。生徒たちがこの旅の中でも特に楽しみにしていた場所。10時半から約7時間、たっぷり楽しんだ。様々なアトラクションの中で1番人気はやはりジェットコースター。乗り物にすぐ酔ってしまう私は、他の職員2人がジェットコースターに挑戦して興奮している姿を見て決心。酔い止めを飲んで自分も楽しむことにした。平日ではあったが、他校の修学旅行生も多く、クリスマス前のストリートパフォーマンスやパレードもあり、巨大ツリーも飾られており、賑やかな雰囲気を十分に味わえたUSJだった。(生徒S「ジェットコースターなど8つのアトラクションに乗りました」生徒N「すごく恐かったけどそれ以上に楽しかったです」生徒H「ジェットコースターで一瞬だけ気を失いました」生徒S「あまり楽しすぎて普段の自分なら絶対に買わないような高い帽子を友達とおそろいで買ったりして、帰りのバスで後悔しましたが、USJは自分を見失うほど楽しい夢の国でした」生徒H「妹たちの喜び顔を想像すると、お土産をたくさん買ってしまった」)



3日目の宿泊はチサンホテル新大阪。バイキングだと期待していたが、洋食のセットメニューだった。生徒達は皆旺盛な食欲を見せた。



あまりの楽しかったから体調不良を訴える生徒はいなかった。関西に親戚がいる生徒は、久しぶりの面会で顔がほころんでいた。(生徒T「大阪の親戚と面会でできて嬉しかった」)



12月7日(金)

最終日。朝5時45分起床。伊丹空港から奄美へ。数日間しか離れていないのに懐かしく感じた。やはり奄美は温かい。昼食はひさ倉で鶏飯を食べた。みんなものすごい食欲。そして予定より少し早く学校へ到着した。両手にお土産を抱えて元気に帰ってきた生徒達を先生方が温かく迎えて下さった。(生徒M「奄美に帰ってきて食べたひさ倉の鶏飯が修学旅行中で一番おいしい食事でした」生徒I「島が一番落ち着ける場所だと改めて思いました」生徒T「人生最後の修学旅行とても楽しかったです」)

この4日間体調も崩さず、集合時間も守り、大きな事故もなく無事に過ごせたことが何よりだった。朝から夜までずっと一緒に行動し、それぞれが旅行を本当に楽しみ、幸せそうだった。島の良さも再確認できた。(生徒H「また修学旅行に戻りたいです」生徒H「多少荷物になるけど防寒着が絶対必要だと思った」生徒I「笑えばなしで本当に最高の修学旅行でした」)